

平成22年度 第4回

川合市長と語り合うタウンミーティング

～ 未来を担うひとづくり ～



日時：平成22年8月5日

午後3時～午後4時30分

場所：東部地域ふれあいセンター会議室1・2

参加者

川越市立小中学校の教員の皆さん 29 名

出席者

市長、市民部長、学校教育部長

意見数

分類	件数	内容	頁
教育・文化・スポーツ	16	小学校の英語活動の打ち合わせ	2
		地域の人材活用	3
		小学校の教科担任制導入	3
		教科研究の時間	6
		特別支援を要する子どもに対しての学習支援	6
		個別に配慮しなければいけない児童の推移	7
		価値観の多様化に対する対応	9
		図書室の充実	12
		研修の充実	12
		保護者の価値観の変化	13
		学校への苦情対応	15
		なぜ荒れる学校になるのか	16
		事務・教材の電子化	17
		働きやすい環境づくり	17
		教員が相談できる環境づくり	19
		子ども達が認められる仕組み	20
計	16		

意見交換（要約）

《小学校の英語活動の打ち合わせ》

川合市長 きのうちきょうの朝日新聞で、小学校の英語を教えるための先生が業務委託という形で来ると、担任の先生と全く授業の打ち合わせをやってはいけないと、労基署の方から言われているという記事を見ました。担任と打ち合わせをしないで授業ができるわけがないので、それができるような方策を講じるのが普通だろうというふうに思っていますが、皆さんはそんな印象を持たれないですか。

確かに県が雇う、市が雇う、そういう形で臨時職員として雇えばいいのかもしれないけれども、英語が話せる外国人を何十人も集めるとか、そういうのはなかなか市の能力ではできないことですよね。どうしてもそういう講師をいっぱい抱えているところに業務委託してしまうとか、そういうふうにならざるを得ないのは見えているのだから、その辺の手当てもきちんと考えるべきだと思いますが。

意見 川越市の場合は教育センターの方が中心になってAETの教員見習いをやっていただいているので、時間がなかなかとりづらいんですけど、打ち合わせについては、各学年、各担任とも定期的に行っています。本校の場合には、担任に授業を全部やれというとなかなか大変なんですけれども、AETの方に来ていただいているので、その中で打ち合わせをしながら授業が進められています。そういう面では教育センターさんの方で配置等を整えていただいているので。

川合市長 余りそういうことは問題になっていないのですか。

意見 どういう方が来るかによつての違いはあるかと思うんですけど。

川合市長 職場によって指揮命令してはいけないというのであれば、担任と打ち合わせしたって、要するに事実の伝達だと、知識の伝達であると、例えばこのクラスにはこういう人がいますよというのを伝達しているその一環だと言ってしまうと、それで済むのではないかと思ったりもしますが、それも無理ですか。

意見 新聞を読んだときに、これがそのままなるように言われたら非常に困るなという印象を確かに持ちました。きょうせつかくの機会をお願いというか、意見として言わせてもらいたいなと思っていたのはAETの人数でして、中学校側からしますと、拠点が中学校で、小学校に週に何日か行って、そこで5年生や6年生の英語活動の授業を行うような形に昨年度からなつたんです。

それで、中学校側の授業の数等々いろいろ考えますと、小学校に毎週1回ないしは何日か出かけられてしまうと、中学校側のAETと一緒にする授業の回数が以前に比

べると少し少なくなってしまうんですね。業務委託とか現地採用とか三つぐらいの形態があったと思いますが、新聞に報道されていたような勤務形態ではなく、人数を確保していただければありがたいなという印象です。

吉野学校教育部長 英語については、確かにAETがたくさんいればいいとは思いますが、やはり予算的なものもあって、なかなか難しい面があるんですね。例えば小学校の英語活動で打ち合わせができないというのはどうでしょうか。私は個人的には、打ち合わせはやらないと授業はできないと思いますが、小学校の先生方はいかがですか。

意見 本校では5、6年生を対象に、隣の中学校からおよそ6時間分、AETに来てもらって英語指導している状況になっています。火曜日の午前中と金曜日の5、6時間目という時間を使ってやっているんですが、5時間目にすぐ入って指導なさせて、6時間目が終わったら帰っていきますから、それで打ち合わせというのは非常に厳しい。ちょっと残ってとは契約上言えないんだと思うんです。

ただ、教育センターさん、教育研究所時代に、こういうふうにやりましょうというものを川越の場合はつくってくれていますので、何とか5、6年生レベルならできている現状ですが、もしも、いろんな都合でこの部分だけやりたいとか、基本計画じゃないことをやろうとすると、苦しくなると思います。ある程度、授業が始まる前から来てもらえて、もしくは授業が終わったあとも残ってもらえるといいのだけれど。打ち合わせができる時間を確保するためには、ある程度小学校専門にやってくれる先生がいたらなんて思うところはありますが、川越市の場合はその計画表がありますので、どうにかなっています。

平成23年度から正式に学習指導要領の指針になって、もっと外国語活動に力を入れなさい、それぞれ特色を出してやりなさいとなると、苦しいでしょうね。

《地域の人材活用、小学校の教科担任制導入》

意見 今、全国で、教職に就いておらず、民間で小学校英語指導者研修とか児童英語指導者ということで講習、研修を受けて、Jシャイン(J-SHINE)というNPO法人で認定された人たちが、民間の主婦が中心なんですけど2万人ぐらいいます。そういう方たちというのは、以前ご自身が学習されていた英語をいつか還元したいというようなチャンスをうかがっていても、家庭に入ってしまうとその機会がなかなか得られない。小学校でお勤めしたいとか、子どもとかかわりたいということで勉強されている方がたくさんいますので、担任の補佐としてAETの代わりとして、いろいろ歌やゲームや、指導の流れとかを担任と相談しながらやってくれるということです。

私も実際、昨年度、通信教育等の講座を受けまして、そういう方たちとご一緒に講師の免許を取ったんですが、大変深く研究されているので、川越市ではまだそういう採用は余りないと思うんですが、他県では一般の家庭に眠っている地域人材といいですか、そういう方たちを活用して学校教育で助けていただいているというお話を伺いました。

あと、もう一点は、春日部市でJ T E (Japanese Teacher English) という立場の人がいることを知りまして、そういう方ですとA E Tとはまた違って日本人英語教師なので、小学校の子ども発達段階もちゃんと考慮した上での教育をしているという人を見たことがあります。

吉野学校教育部長 実はきょう、昼食中にお客さんが来まして、その方はオランダ大使館に勤めていて定年になったんですけれども、英語について、自分は自信がある、小学校の英語活動のA E Tの代わりでも十分できるし、ぜひボランティアでやりたいんだと、できたら臨時的なそういう仕事はないですかねという形で来た方がいるんです。私も初めて聞きまして、例えば横浜だとかほかの大きなところではそういうこともやっているそうで、ああ、そうかと、外国人だけじゃなくて、日本人でも外国の人よりも、ちゃんとした発音ができますと、そういうこともおっしゃってまして、こういう方に入ってもらうのも一つの方法かなと思ってまして、ちょうど同じような感じを受けていました。

どうでしょうか、小学校の先生方、今度、来年度から小学校で英語活動が全面実施ですよ。実は小中の連携もやっていますので、中学校の英語の先生に小学校に来てもらうとか、そこら辺の交流も含めてどうしたらいいのかなというか、川越市にとって何かいいアイデアがあればと思いますが。

川合市長 今の方が言われたようなそういう人材があるのであれば、活用しない手はないと思いますね。それはぜひ検討してみたいですね。

吉野学校教育部長 その方は教員免許は持っていないのですが、英語については外国の方以上に堪能であると、かえってそういう日本人の方のほうが小学校の授業にとっては、英語教育というのはどうなのかなと思ったんです。

意見 今の英語の話から少しそれてしまいましたが、地域の人材を活用するということで、例えば体育の方面でいうと、川越市の中にもトップアスリート授業とか、あとはそれぞれ過去にスポーツをやっていた経験者の方が小学校に入ってサポートしたり、授業と一緒にいただけるというようなそういう授業を川越市では行っているんです、そういう形で例えば英語に限らず、私も今5年生で家庭科を持っているんです

が、裁縫だとか料理を子どもたちに教えるのに、私よりもお母さん方とか、そういう地域の方の協力を得たほうがもっと子どもたちのためになるんだろうなと日ごろ感じているところがありますので、英語に限らずいろんなところで、川越市がもっともっと地域と学校が連携を図れるような体制が整えられると非常にいいのかなと感じております。

意見 高学年の5、6年の学習内容というのは理科でも社会でもかなり高度な内容になっていまして、担任がほとんどすべての教科を教えるような形になっています。ですから高学年を持ちますと、ほとんど土日は教材研究をしないと、子どもたちが興味を持って授業に臨んでくれないというようなことがありまして、かなり高学年は専門的な知識も必要で、子どもたちがやる気になる楽しい授業をつくっていくためには大変だなということを実感したんですね。

中学校ではすぐに教科担任制というものが始まって、その環境に慣れないために不登校になりがちになるというようなことを聞いております。

先日も、川越市で出されました、「不登校問題の解消を」というような冊子を読んだときに、小学校は28名の不登校に対して中学校は280名近くの生徒が不登校になっていて、川越市としては不登校が非常に多いというような現実があるわけですね。

ですから高学年に対して教科担任制的なものを、例えば家庭科の専門の先生ですとか図工の専門の先生ですとか、例えば6年生の体育というのはかなり高度な技術を教える面が多いんですね。ですから補助の先生というか、体育の専門の先生に子どもたちを教えていただいたら、もっと子どもたちが楽しく力がつけられるんじゃないかなと思うんです。何しろ授業がわかって楽しい、そして力がついたことを子どもたちが実感できるような授業をつくっていくということが、不登校をなくしていく大きな力になっていくのかなと思っていますので。その辺を行政的に何か考えていただけるとありがたいと思っています。

川合市長 中学校へ行くと急に不登校がふえるというのは、今の教育長もよく認識していて、それを解消するために中学校と小学校の教員の人事交流を進めていこうと、そういうようなことを教育長としては考えているようです。今言われたように、教科担任制を一部なり導入するというのも一つの方法だと思いますので、それは検討してみたいと思います。

それから、先ほどの人が言われた体育とか英語以外の科目についても地域の人に助けをいただけるような、そういうのに長けた人に教えてもらえるようなシステムが導入できるのかどうか、それも検討してみたいと思います。

吉野学校教育部長 例えば地域人材活用事業をやっていると思いますが、今やっているレベルですと不十分でしょうか、まだまだ足りないでしょうかね。

意見 結局、国語も算数も、理科も社会も家庭科もというようなことで、理科の実験の準備などは本当に、学年で協力しながらやっていくんですけれども、それでもかなり放課後遅くまでかかって準備をしなければいけません。ですから結局担任が全部やらなきゃいけないわけですよ。高学年の場合なんかは、体育は体育で専門の先生にやっていただけるようなシステムがあれば大変ありがたく、一つの教科の教材研究に時間がかけられるわけですよ。そうすれば子どもたちにもっともっと力がつけられて楽しい授業をつくっていけるかなと思うんです。高学年を持つと、土日はほとんど教材研究をやっていかないと追いついていかないとというような現実でした。

《教科研究の時間》

川合市長 今回の学校の先生は大変忙し過ぎるというような報道などがあると思いますが、例えば一般的な事務処理、子どもに教える教科研究とか、そういうものとは関係ない事務処理がかなり負担になっているということはあるですか、皆さんの実感として。それならば、そういうものを少し減らせば、教科研究のほうに時間を余計に回せるようになるとか。

意見 先ほどの忙しいという話は、本当に小学校、中学校のどの先生も日ごろ感じているのが正直なところだと思いますが、教材研究も確かに時間がかかりますし、それから高学年になると、一つのテストのマルをつけるだけでも 40 人とかいると、本当にそれだけで時間をとられてしまったり、勤務時間の 4 時 45 分にすべてを終わらせるということとはとても不可能な現実があります。

そして、土日がお休みになりましたので 6 時間授業がふえたりとか、平成 23 年度の改訂で授業時数がふえたり、英語活動が入ってきて教える科目がふえてきたりとか、教材研究の時間も多くなりますし、先ほどの事務処理というところでいうと、余り具体的には思い浮かばないんですが、例えば自己申告とかそういうところでも今までなかったものが、確かに先生たちのためを思ってやっていることかもしれないんですが、現実には現場の先生たちがやっている仕事の量が多くなってきたなと日ごろ感じていますので、そのあたり、減らすということは非常に難しいことだと思いますが、例えば校内での研修の時間もふえてきて、校内研究に追われる日々で、研究が何のための研究かというのがわからなくなってくる、そういう実態があります。

《特別支援を要する子どもに対しての学習支援》

意見 忙しいのは確かなんですが、多分どの先生方もそうなんですが、私たちは子ども

もたち一人一人のよさを伸ばしていきたいという考えがあるので、そのために教育ってきつときりが無いと思うんですね。どこまでやったらいいかということが無いというそういう中で、先ほど新しいことがいろいろ入ってきたと、それを校内でいろいろ工夫しなきゃいけないことがたくさんあるんですが、先ほどから何人かの先生方がお話ししてくださっていますが、子どもたち一人一人を伸ばしていくためには、一人一人を見る目をふやしていく必要があると思っています。そのためにやはり人員の確保が必要になってくるのかなと思います。なかなか予算的な面で難しい面もあると思います。

先日、別の研修で、自立支援サポーターとかスクールボランチの方だとか、私の学校では入っているんですが、そういう方が入っていない学校さんもあると聞いて驚いたんです。

今は、低学年から中学校まで特別支援を要するお子さんがどの学級にもいて、その子たちも、もちろんほかの子たちも含めて一人一人伸ばしていこうと思ったときに、やはり担任だけの目では行き届かないところがあるのかなと思うので、そういう方たちのサポートがあれば、もっと子どもたち一人一人のよさを伸ばしていけるかなというふうに思っています。今現状としては、自立支援サポーターやスクールボランチの方は週に2回ほどしか学校に来ていないんですけれども、常駐でいるといいのになと思ったりもします。

川合市長 今の人のご発言との関連ですけれども、去年、幼稚園協会の会長と話をしたときに、幼稚園で、発達障害とまでは言わないけれども、それに近いような子どもたちがすごくふえているというような話がありました。皆さん、自分が小学生、中学生だったときの記憶と照らし合わせてみて、そういう人がふえていると思いますか、それとも昔と同じだと思いますか、その辺についてはどうですか。

意見 今の件ですが、本校1年生に、幼稚園からの申し送りで、特別支援学級の子どもかなと思われる子がいます。私は実は養護学校も経験していますので、能力からしたら旧養護学校かなとか特別支援学級かなという子が実際に1年生に2名います。障害もあるんですけれども、その中でどうにかやっています。受け持ちなんですけれども、もうそのことが年度当初にわかっていたので、通常の担当の時数を減らしてもらって、急遽対応というような状況が続いています。そういう非常に厳しいというのは現実的にあります。

《個別に配慮しなければいけない児童の推移》

川合市長 質問の向きを変えて、ここにいる先生方は、なったばかりの先生もいらっ

しゃるかもしれないけれども、もう10年、15年経験されている人もいます。自分が教師になったばかりのころと比べて、今、若干これは発達障害なのかなとか、若干おけているのではないかと思われるような子どもが、自分が教師になったばかりのころに比べてふえているかどうか、そういう質問をしてみたらどうでしょうか、どういうふうに答えられますか、余り変わっていないですか。

意見 個別に配慮しなければいけない児童はふえていると思います。障害があるとかということであれば、特別支援学校とかを勧めたりとかはあるんですが、そういうものはあるんだろうなとは思いますが、でも、それがはっきりしないで普通学級と一緒に勉強しているという中で、この子にはどういう個別な配慮の必要があるんだろうかと、そのためにかなりの時間を割いているという形で子どもがふえているなという感じです。

あとは、障害ではありませんが、アレルギーですとか、そういったことで自分が教員になりたてのころよりも、今この子にはこういう配慮をしなければいけないとか、そういったことは本当にふえてきているなというのが実感です。

意見 私もやはりふえているというのが実感です。

ただ、我々は、発達障害の子たちに対しての判定だとかそういうのは全くの素人なので、多分そうじゃないかという子を含めて、そうだろうなということぐらいしか言えません。ですから保護者に対しても確信を持って言えない。お医者さんとの連携がほとんどできなくて、そういう子たちがやがて中学校に行き、いじめに遭ったりだとか不登校の原因になったりとか、行く行くは引きこもりになったりする原因になっているんじゃないかなというふうに思います。

基本的にはそういう子がクラスの中で、例えば2割とかいるというふうに言われていますけれども、そういう子たちがいると、やはり担任の先生の負担もものすごく大きいと思うんです。ですから、指導はもちろん我々が責任を持ってやっていくわけですが、できるだけ早期発見して、早期治療をしていくようなシステムがすごく必要になるんじゃないかなと思います。

例えば、発達障害の子は指先が不器用だというふうに言われているということを聞きますけれども、ブロックを操作してうまくできないのを、知らない担任は「なんでできないの」と叱ることがどうしても多くなって、その子の障害の特性を知らないために叱られて大きくなっていくとか、行く行くはそういう二次障害を起こしたりするということがあげられると思います。

ですから学校としては、例えば就学時健診のときに発見するようなシステムがほと

んどないんじゃないかなというふうに思います。具体的に今行われているのは知能検査ぐらいで、でも、お医者さんにお聞きすると、それぐらいではほとんど発見できないというふうにおっしゃる、早期発見、早期治療が一番必要だということと言われるので、学校と医療との現場で、我々が身につけておかなきゃいけない知識だとか指導法などを、お医者さんと連携をしてやっていく必要がすごくあるんじゃないかなと思います。

意見 私も 30 年教員をやっているんですが、最初は市立養護さんということで、いわゆる知的障害のお子さんからスタートしました。そのあとが情緒障害ということで、いわゆる緘黙（かんもく）ですとか不登校のお子さんを含めた情緒障害、現在は自閉症も情緒障害ということで自閉症のお子さんの数が大分ふえまして、そういう歴史的な流れを経ております。

知的障害の方が仮に 2.3% だとして、数年前の文科省の統計からいくと、6 から 7 % の発達障害というような数字を学んでおります。ですからそのあたりで市長さんのおっしゃる、ふえていると仮に定義をすれば、ふえているんだろうと思います。

同時に、医学の進歩が今かなり急速ですので、病名がふえると、その数がふえるといえますか、障害のお子さんに限らずですが、かなり医学の進歩というのがその背景にあって、自閉症も AD/HD から LD から高機能自閉症、さらにアスペルガーということで、自閉症が真ん中にあつたとしたら、周辺の障害がかなり多岐に入り組んでいますので、お医者さんの判定自身もかなり難しい。まして教員、親御さんの立場からすると、発達障害と思われるお子さんは、ずっといたと思うんですが、その辺の定義の仕方なり、文科省あるいは厚労省的な網のかけ方によって数字は変動するのかなという感じは持っております。

あわせて親御さんの要求等も複雑かつ水準が高いものを持っていらっしゃると思いますので、特別支援学級としましてはその辺がかなり、通常学級の先生とも連携をとりながらやっているんですが、なかなか難しい現状にあります。

川合市長 発達障害については、保育園とかあるいは幼稚園の段階で何とか見極めて適切な指導ができるような体制ができないかなということは今考えているんですよ。そういう専門的な知識のある人を保育園に配置するなどの体制を、もっと充実させるというようなことを私としては考えています。

《価値観の多様化に対する対応》

意見 個別の配慮を要する児童が増加しているということと同時に、ご家庭の価値観も多様化しているというか、いろんなご家庭がふえてきているのかなと感じておりま

す。ここ2年の間に突然転出、突然転入という、原因がDVですね。逃げるように去ってしまうとか、警察のパトカーが迎えに行ってくるとかという件がこのところあったので考えさせられたのですが、家庭の考え方もすごくまちまちになっているので、学校にお子さん自体は来たくても、ご家庭の協力を得ないと来られないというお宅があったりして、担任がその対応に追われています。朝お電話をかけてお迎えに上がったりとか、そういうことも現実問題としてあるので、行き着くところは、私たちの仕事を減らすとかそういうことよりも、校内の人間がもう少したくさん配置されると余裕ができて対応がうまくいくのかなと感じています。

尾崎市民部長 今のDVですとかいろいろな問題は、本当に学校の先生が対応する問題なんだろうかという部分もありますよね。行政にそういう部署もありますしね。先ほどどなたかおっしゃいましたように、親の要求が変わってきているのと同じように、市役所に対する要求もすごい要求がたくさん来ています。どう考えたって現実不可能なような要求でも、それに対して不可能と言えどもない怒り方をするとか、どこからどこの受け持ちが先生の分で、どこからどこまでが警察の分で、どこからどこまでが行政の分と、何かお互いはっきりしないところでみんながどうしようかというような部分もあると思いますよね。

ですから、学校の先生方は、私たちが昔の学校の先生に思っていたそういうようなイメージではないところで大変ご苦労されているように思います。市長もその辺を聞いて、どうしたらいいかなというので、きょうもお話をお聞きしているんですね。

まさに今のDVの問題などは、果たして担任の先生が子どもを守るためにやる行為なのか、もっとどこかとうまく連携がとれたらいいのかというような部分もありますので、何かその辺を見つけていくと、もっとみんなで分散してやれる部分もあるのかなと思います。そういうものをどう分けていったらいいのかというので、みんなで話し合いをすればいいのかなと思います。

意見 今、市民部長さんがおっしゃったことなんですけれども、今年、本校では夏休みに家庭訪問をこの暑い中したんですけれども、そのときに、ある数軒のご家庭の中から、お父さんとお母さんの関係とか、それからあとは、地域の中で自分の家はこんなふうに見られていて本当に困って、どこに相談していいかわからない、そういうようなお話をなさっているご家庭が数軒あったんです。

私は、お母さんがお話をするとこがなくて、こちらにお話をしてくださるので、私ができるところ、学校側ができるところはどこなんだろう、それからあと、そういう面では家庭の中で子どもが危機にさらされているわけですから、やはり先ほどの先

生がおっしゃったように、子どもたちを少しでもよくしてあげようというのはもちろん私たちの仕事ですから、その中で担任として、学校としてできることは何なんだろうと、だから、学校へ帰ってから、きょうこんな話があったんですけどということで、もしかしたらこの話が悪いほうに発展したら、先ほどのDVのようになる可能性もあります。

それから、そのお母さんがおっしゃっていた中に、我が家の実態が外部に知れて、うわさを立てられちゃったと、そんなようなことなんかもお話しなさっていたんですね。ですからそういうところは地域のことなので、内容によっては民生委員さんにお話をしなければならぬ部分も出てくるでしょうし。

あとは、やはり子どもの実態が変わってきているということですね。子どもが自分の家庭のためにできること、それを学校で少し力をつけていかなくちゃいけないのかなと私はずっと思っています。本校では家庭科のカリキュラムの中でご飯をたくのは6年生になっているんですけども、ことしの1学期にその授業をしたときに、家庭でたいたご飯をよそったことがないという子どもが10人ぐらいいたんです。それでびっくりしまして、実際に学校で実習するときにはお鍋を使ってやりますけれども、電器釜でご飯をたいたことさえほとんどないのに、実際ご飯をよそったことのない子どももいるというのが実態です。

一つは、少子化で子どもが少なくなっているからお母さんやお父さんが大事にしすぎて、できることをやらせないというのもあるんだと思うんですけども、やはり学校では基礎、基本を教える中で、一人でも生きていける、要するに自立ができる子どもを育てていかなくちゃいけないと思いますから、そんなふうな視点で日ごろ指導しております。

それから、先ほどお話がありました発達障害とか情緒障害とかという子どもは、本当に毎年のように多くのクラスにおります。現に私のクラスにもおりますけれども、そういう子どもを囲んで、ほかの子どもたちがその子のために自分は何ができるんだろうということのを非常に考えてくれているんですね。ですからある意味、そういうお子さんがいて、担任は確かに大変です。本校の場合は、サポートして下さる先生が1人、毎日ではないんですけども、一週間のうち、ほぼといっていいくらいついて下さるので助かっていますけれども、お母様の方に見れば、そういう先生がついて下さって当たり前というふうに思われている方も中にはいらっしゃいます。ですから、学校の現状をわかっていただくこと、それからあとは、学校としてはここまではできるけれども、このところだけはご家庭にお願いしなければだめだということ

と、それからそういう子どもが普通学級にいるためには、そのお子さんにこういう力もご家庭でつけてほしいということも学校で伝えていかななくてはいけないのかなというふうに思っています。そういう中で信頼関係が生まれてくれば、お互いにお話が行き交いできますので、まずは担任とそういうご家庭との信頼関係から始まるころなのかなというふうに日ごろ私は思っております。

《図書室の充実、研修の充実》

意見 先日、7月の終わりに全国学力・学習状況調査というのが新聞に出ましたよね。そのときに埼玉県の小学校6年生は国語も算数も全国平均以上または同程度という結果が載っていました。ただ、中学3年生は数学の応用力を問う問題のほうなんでしょうが、全国をやや下回っていて、それが4年続いているということが新聞に載っていました。

小学校6年生の国語と算数は全国平均以上、同程度というのを見たときに、問題を見ましたときに、かなり表現力を要求されるような問題文になっていたんですね。助詞をきちっと使えるというような形での、かなり高度な問題だなと思ったんですけども、それでも埼玉県は全国平均よりも上だというようなことを見たときに、やはり先生方が一生懸命国語や算数の授業を日々積み重ねている結果なんだろうなというふうに思いました。

それも、読書と読解力というのは非常に関連性が深いと思うんですね。川越市でやっています川越の小江戸読書マラソンというのは、30冊読むと校長先生の名前のカードが張られるというものをやっています。今の小学校でもそれをどんどん増し刷りをしていまして、昨年私が2年生を持ったときに、10枚目、11枚目というようなことで、どんどん積み重ねていけているんですね。そういう中で読書というのはかなり重要で、子どもたちの力を高めるといふか、生きる力といふか、そういういろんな知識を広げていけるということだと思っております。

ただ、どこの学校も、学校で規定されている図書の冊数よりもまだまだ少ないんだそうです、川越市の現状としては。ですからそういう図書室の充実ということと、それから子どもたちに国語とか算数とか力をつけていくためには校内の研修ですとか、そういうことが重要なんじゃないかなと思っています。論理的に考えを表現できる児童の育成ということで今年度も研修をしているんですけども、そういうときに大学の先生が来てくださったり川越市の教育委員会の先生が来てくださったりしてお話を聞くと、やはり私たち自身がすごくいい勉強ができて、いい勉強ができるということとは、それが子どもに返るといふことだと思っております。ですから研修の充実という

のはとても大切だなというふうに思っています。

川合市長 学校図書室の図書は基準までにいかない状態なんですか。

吉野学校教育部長 まだいっておりません。確かに基準までいっていない状況がありますが、毎年確実に蔵書数は増えていると思います。予算との関係もありますが、小学校、中学校とも平均しますと7割ぐらいですよね。ですから、まずは、8割、できたら9割ぐらいまで持っていきたいとは考えております。

尾崎市民部長 図書室の本というのは、こういう本をそろえなくてはいけないというのが決まっているのですか、だれかからもらえばいいというわけではなくて。

吉野学校教育部長 大体学校の方で必要な図書については要望というか、こういうものが必要ですということを出してもらっているわけですね。

意見 そうですね。学年ごとに国語とか理科などその教科に関係する、本校の図書室を見ると、こういう本が足りないので購入してくださいというようなことを、図書主任の先生とか図書担当の先生が集約して、夏休みの間に本を購入していったというような形で、どこの学校もそのように進めているかと思えます。

尾崎市民部長 今お話ししたのは、家庭に眠っている本がいっぱいあると思うんですね。それをみんな捨ててしまうのですね。昔は書棚みたいのをつくって、そこに本を並べるのが一つのステータスみたいのがあって、全集みたいのも持っていました、そういうのを今みんな捨ててしまうのですね。

そういうものをPTAなどと一緒に、程度のいい本を集めてふやすというのも、お金がない中では一つの方法かなと思います。そういうのも、リサイクルではないですけども、呼びかけたら集まるのではないかなという気はしますよね。

どこかから発信して、こういうものがあつたらいただけませんか、例えば学校から出せば結構父兄あたりから集まるかもしれないですよ。

意見 何年か前に、川越の中央図書館で、本をほしい方は持って行ってくださいということで、各学校でかなりの冊数をいただいたことがありましたね。

吉野学校教育部長 図書館から持って行って結構ですよという形ですと、それなりの本をそれぞれ学校で確保できるのですね。実は私も学校にいたとき、地域の資源回収で、本をどうぞというのでたくさん持ってきてくれたのですが、今度それを使えるものと使えないものに分けるのが非常に大変で、なかなか難しい面がありましてね。

意見 現実はそのだと思います。

《保護者の価値観の変化》

吉野学校教育部長 ちょっと気になっていることで、私は教育委員会として3年経ち

ましたが、年々保護者の方の価値観というか要望というか、ここたった3年ですけど、すごく変わってきたなという感想を持っております。いろいろな対応というか、校長先生が苦労しているから支援していくということで、一緒にやっているわけですけども、そういう機会が非常にふえてきた感じがいたしますが、皆さん方はどうでしょうか。教育委員会までこないまでも、それぞれの先生方のところでいろいろ対応されていると思いますが、そこら辺の実態というのはどうでしょうか、お聞きしたいなと思います。

意見 おっしゃるとおりだと思います。職員室での様子を見ておきますと、たくさんの先生方が、電話は2本しかないのに、その電話を待つように保護者に連絡したり、または家庭訪問を毎日やったりというような状態です。しかも、10分、20分では終わりません、1時間単位です。

吉野学校教育部長 そうでしょう、私が学校に電話しようと思って電話するとつながらないんですよ。電話中に出ないんですよ。

意見 保護者の皆さんは学校に一番言いやすいんですね。話を聞いてくれる場所が担任の先生なんだろうなというような印象があります。だから私たちは、とにかく話を聞いて情報を共有していこうって、教員同士で大変だったねって慰めたりとかしてはいます。

意見 私の小学校は逆にそういったことはほとんどありません。保護者が苦情みたいな感じで学校に電話するということは余りなく、逆に、こっちが連絡をとりたい保護者が見つからない。電話でもしてきてくれればいいのですが、朝かけて、夕方かけて、家に帰って夜かけてもいないか、出ない。そういったおうちが正直、お子さんが困った場合になっていることが多いです。学校が文句を言う場になっていないというところは、言いやすくなっていないのか、いろいろ学校によって温度差はあるんだと思います。

吉野学校教育部長 いろいろなことで保護者の価値観が大分最近変わってきたような気がするんです。例えば指導一つにしても、あの先生の指導のやり方、あれはおかしいのではないかと。最初は多分先生のところに言うと思いますが、対応がこじれてくると、校長さんのところに行って、校長さんもだめだと教育委員会に来ます。それからまた戻る形で一緒にやっていくのですが、そこら辺の初期対応というか、これは大きな問題になるなとか、これはこう対応しなければいけないなという面での疲労感というか、忙しさというか、多忙感が先生方はどうなのかなと、いつも私は心配しておりますが、そういうのは大丈夫ですか。

《学校への苦情対応》

川合市長 苦情対応で苦労されているというのは皆さんの場合はどうですか。

吉野学校教育部長 中学校の先生はどうでしょうか。

意見 苦情という点では親からの苦情も多いし、生徒からの成績に対する苦情もあるし、地域からの苦情も匿名でたくさんかかってきます。それがことしは減りました。卒業した子たちに暴れん坊が多かったものですから、地域からも学校は嫌われ、生徒たちからも、先生たち何やってるんだよと言われていたという感じでしたね。

その中で、とにかく朝、行ったら、もう職員室には戻ってこない。お箸も持って行って給食指導もして、昼休みもとにかくずっといる。6時間終わって4時にやっと職員室に戻ってくる。

だから、これを届けてくださいと、保護者から生徒に渡すものがあったとしても、届けられないくらい張りついています。とにかく4時まで頑張ろうと。頑張って、戻って、へとへとはなりますが、何かが起こると対応に時間がすごくかかるんですよ、二度手間、三度手間と。とにかくそれをなくそうということでやりました。

今は少し落ち着いた生活ができていますが、やっぱり昼休みは絶対戻らないで、何かあると困るから見ようねということでやっています。ただ、それを1人でやったら疲れちゃうと思うんですよ。私がいたその学年は、いいメンバーに恵まれましたので、みんなで頑張ろうよと。金曜日になったら、じゃあお酒を飲みにいこうよという何か楽しみを私たちも見つけながら、とにかくだれかのせいにはせずにみんなで頑張ろうよということでやってきましたので、もう本当に毎日へとへとで、土日は部活で、さらにへとへとで、また月曜日になると、頑張ろうねと言いながら、みんなへとへとだと思います、きっと。

意見 やはり一回崩れた関係はなかなか修復するのも難しく、学校不信を抱いてしまうんですね。校長先生も含めていろいろと話してくるんですが、もう学校に対して信頼を持っていないのでなかなか進展していかない。教育委員会に話をさせていただいたりとかしているんですけども、その関係修復に関しては第三者というか、ある程度なごむまではいろんな方に入っていただいて、仲を取り持ちながら少しずつ回復させていかなくては難しいのかなというのが一点目です。

あと、やはり子どもとの関係がうまくいってれば、子どものほうから保護者のほうに話してもらったりとかそういうのがあるので、生徒との人間関係づくりを重視していかなくちゃいけないなというのをすごく感じています。

ただ、私たちが全然想像もしないようなとらえ方をされるので、そんな意味で指導

したわけではないんですよと話しても、一回爆発したものが止められない保護者がふえてきているかなと感じています。

《なぜ荒れる学校になるのか》

川合市長 先生方の個人的な印象とか個人的な考えでもいいですから、ぜひ聞かせてほしいですね。何で荒れる学校になるのか、難しい問題だと思いますので、個人的な意見で構わないですから。

意見 私が今の学校に移る前はもっとひどかったらしいんですけども、結局、問題が生じている対生徒や対保護者はいろいろと話しながら進行しつつ、やはり周りの生徒、その他大勢との信頼、先生たちがいろんな場面で、部活動にしても授業にしても、いろんな部分で頑張ってきて立ち直ってきたのかなという経過を見たり聞いたりしているので、そこら辺、いかに多くの保護者や生徒から信頼が得られるかというのが大きなカギになるのかなと思うんですね。

なぜ荒れるかということに関しては、やはり先ほどからの話にも出ていますが、いろんなものに追われていて、細かいところのちょっとした瞬間だったり、ちょっとしたすき間ですれ違ったりとか、そういう細かいところや小さいものの蓄積が最終的に数がふえ、規模が大きくなってしまったのではないかなと思います。だから、その小さく生じているところをいかに丁寧に対応していくかが大事なんじゃないかなと思うんです。

吉野学校教育部長 市長も見に行かれたのだと思いますけれども。

川合市長 見に行きました。

意見 掲示物とか、かなり壊されていたんですが、PTAで防犯カメラをつけていただったので。その事実を見たり、何か証拠がないと詰められないといいますが、そういう状態でした。ほかの子たちが見ていても、その子はこわくて言えないんですね。だから、事実がうやむやになっちゃうんです。去年はそういうところが多かったです。ことしは随分おさまっていますが。

数名の子たちは、もうある程度何回も小学校から指導を繰り返しているのですが、その指導がうまくいくというよりも、今の現状で何とかとどめるというような感じですね。一番今気をつけているのは、周辺の子たちをいかに卒業させるかということを考えています。信頼関係というふうに言われますが、お父さんとかお母さん方もそうなんですけれども、周辺の子たちをこちらに目を向かせるということがかなり必要なのではないか。いかに食い止めるかという対策を今やっています。

川合市長 教師が子どもたちのためにもうちょっと時間を割ければ荒れる学校は防

げる、あるいは沈静化できるというような考えを持っていますか。

意見 人間関係ができれば。人間関係って、確かにつくるには時間ですね。私は川越に来て3年目なんですけれど、川越に来るときにいろいろわさは聞きませんでした。教師生活ウン十年ってやりながら初めて起こることばかりでしたが、やっぱり人間関係ができてくると大丈夫なんですよ。そのためには余裕はほしいです。

《事務・教材の電子化、働きやすい環境づくり》

意見 それと一緒にもう一つ言わせていただくと、コンピューターを1月から1人1台導入していただきましてありがとうございます。私は前任校が坂戸で、坂戸でもずっと以前から校内LANが組まれていて、通信簿もすべてコンピューター印刷なんです。もう5年も6年も前のことですが、川越はまだすべてハンコ、5、4、3、2、1も手書き、所見もすべて手書きで、それにかかる時間は本当にすごいですよね、10時間とか。コンピューターのほうだと、すべて残りますので、3年後、3年生が調査書をつくるときにもそれがすぐ有効なんです。そういうのをやったらどうですかと言うと、上からいいと言われてないからできないと。すべてがトップダウンで、私たち教員が使いたいようにコンピューターが使えない。きっとそれはいろいろなセキュリティの問題もあるんだと思いますが、もう少し現場の声も聞いていただいて、あれだけお金を投じていただいたので、本当に子どものためになるような使い方を考えていただきたい。近隣はすべてほとんど電子化されてきていますので、ぜひその辺もよろしく願いたいします。

吉野学校教育部長 決してトップダウンでやってはいないと思います。使い方で、こういうふうにした方がいいのではないかということはどんどん言っていただいて、多分その範疇というのは校長の裁量でいいのだと思いますけど。ただ、セキュリティについては市の方で出してますよね、安全性のことについては。一つ課題なのは、例えば通知表をコンピューターで打ち出したものでいいのかというのがあります。

意見 最初は先生も、それから生徒も拒否反応はあるんですけど、すぐに慣れます。

吉野学校教育部長 そのところはちょっと検討の余地があるのかなとは思いますが、コンピューターの使い方記録しておく分には、個人的にはいいのかなというふうに思います。決して上の方から、それは最初からだめだとか、そういうものではないと思いますので。

川合市長 今の問題は検討させてもらいます。

意見 よろしく願いたいします。

意見 きょうは先生方の意見を聞かせていただきたいなと思ったんですけども、先

ほどから、中学校の先生がお話をされていて、恐らく私が6年生のときに担任した子たちなのかなと思ひまして、ちょっと黙っていられなくなったのでお話しさせていただきます。

私も6年生のときに大分てこずりました。夜、電話がかかってきたりとか、急遽、保護者を呼んでとか、児童も呼んでの会議というか相談とかを持ったりとか、あとは夜12時過ぎての対応とかも何回もあったことを記憶しています。

私は今、別の小学校に移ったんですけれども、お恥ずかしながら、荒れたクラスを持ったばかりのときに初めてもう仕事やめようかなと思ったときもありましたし、一瞬ですけれども、死んじゃってもいいかなと思ったときもありました。

今となってみれば、すごく貴重な経験だったかなというふうに思っておりますし、子どもたちと出会えて、自分自身いろんなことを考えさせられたしというか、考えることができたし、勉強になったかなというふうには思っています。せっかくこういう機会でお話ができるので、本音でお話ができるといいかなと思ひますので、率直なことを言わせていただきます。

やはり私たち教師にはどうにもできないことがありまして、例えば働きやすい環境をつくるといっても限度があると思うんです。だから、市長さんや教育委員会の先生方をお願いして、例えば児童と向き合う時間をうまく確保していただくようなシステムを構築していただくとか、川越市の教育ってこういうものなんだよというプログラムというか、そういうものがもうちょっと具体的にできると、私たちも働きやすいのかなというふうに思ひます。

先ほど、ちょっと視聴覚機器の話が出たんですが、川越市の研修を一昨年受けたときに、視聴覚機器は便利だなと。プロジェクター、あとは書画カメラがありまして、SDカードが入ったりとか、いろいろできるんですが、そういう便利さを感じました。一時期、電子黒板が入るとかという話もありましたが、授業をするときに、私も今までいろいろなものをつくってきて、それを財産として残しているんですけれども、多分先生方もそういうものをいっぱい持っていると思うんですね。でも、やっぱり日々の授業でなかなかそういうものを全部使うことはできないんですけれども、例えば書画カメラがもうちょっとあると、授業をするのに教科書で授業ができるんです。例えば算数の図とか表とか、その教科書のままプロジェクターに写してしまっただけのところだけ拡大してという形ができるんです。だから、そういう機器の部分とか、先ほど話をしたシステムの部分とかで先生方が働きやすい環境づくりを、私は余りアイデアはありませんが、先生方のご意見であれば、もっともっと子どもたちと向き合う

時間がふやせるのかなと思います。

教材研究はもちろんしますが、そのために掲示物とか必要最低限しか私はつくっていません。今、21世紀になって随分時間がたっているわけですし、新しい方法で子どもたちを引きつけて、勉強がわかると楽しいとかおもしろいとか、できるようになったことが実感として持てるようにすることが、私ができることなのかなと思うんです。やっぱり子どもたちなので、悪いことをしたりすることも当然あるし、そのときにちゃんと向き合って対応するということが、それが子どもたちと心と心をつないでくれることだと思うので、ぜひそういうことをお願いというか私の意見ですので、私はそういうふうに思っています。

《教員が相談できる環境づくり》

意見 今回、この会に当たって、私は30代ということで、ちょっと感じたことをお話ししたいと思います。

さっきの通知表のところ、同級生がさいたま市の方に来たときに、今こういうのではないよ、ハンコでやっているところはなかなかないよという話でした。

また、ここに来ている方というのは、どこかで何か困っていることを持っている方が多分来ていて、その中で何人かが今話されていると思うんです。市民の方が困っていることを上げる場所がなかったりとか、逆に先生方が困っていることをすぐに上げる場所が、校長先生にお話ししても、また教育委員会の方にお話ししても、委員会の方もすごく忙しいような気がするんです。ここのところメールなんかも何時に送っているんだろうという時間に送られたり、ファックスもかなり際どい時間に送られているような状況があって、委員会の方もかなりお忙しいような状況で、どこに上げていいのかわからない状況があります。市長さんに送ったり教育委員会にすぐ送れるような、ツイッターが今、はやっていますが、ああいうものでも本当にすぐ送れて、すぐに何かできるような。

例えば私のいる中学校は、数年前はすごい大変な学校だと言われていました。でも、本当に先生方の努力によって今非常によくなっています。それでも、空き時間はずっと校舎の中をパトロールして、一日大体1万5,000歩ぐらい歩くような状況が今でも続いています。それでもまだ決して全快ではなくて、本当に日々戦っている状況です。

その中で困っていることを上げるような場面がもう少しあるといいのかなと思いました。今教えている子どもたちがいつか川越の市民になると思うんですね。今やっていることがこれからつながっていくのかなと思います。

負担を減らすということで、私は川越学力調査委員をやらせてもらっていますが、

いいものもつくってきたと思いますけれども、重なっているものもふえているのかなと思います。三つの達成目標の学力の部分と学力調査、いろんなものが重なっていて、多分この中でもいろんな先生方が冊子をつくるのにかかわっていると思いますが、あの冊子も棚の中に入れてしまって、そのお金もかなりかかっていると思うので、いいものもたくさんあると思いますが、減らすことも少し考えて、その減らしたお金で例えば人材だとかに回せばなと思いました。ちょっとまとまらないんですけども、率直な感想ということでお話しさせていただきました。

川合市長 今出てきた冊子というのは、例えば教育研究の結果を冊子にまとめる、そういうものですか。

意見 そうですね。去年、学力調査委員をやって初めてその冊子を見たんです。いいものなんですけれども、その冊子を入れる棚がありますが、そこに昭和の初めから昭和の終わりぐらいまで、ずっとその冊子なんですけど、多分手に取られたことのないものが残っています。いいものは電子的に使えるように、ゼロからつくるのは大変にしても、幾つかつくってあるものはすぐ使えるような状況になってきていると思うので、その冊子を違う形で何か、うまく言えないんですけども、重なっているものは減らして、その分、予算を違う方に回せたら、さらにいいのかなと思います。

川合市長 今、例えば学年単位で、1年生なら1年生を担当している教員が集まって問題を話し合うとか悩みを話し合うとか、そういう時間というのはあるのですか。

意見 学年会などは比較的時間をとれますけれども、勤務時間内はもちろん無理なので、勤務は4時45分終了で、部活は6時近くまでやっているんで、それを考えると6時以降に集まったり、小さなお子さんがいるご家庭ではなかなか難しかったりするので、そうすると、いろいろな時間を組み込んだりしていますが、学年会はゼロというふうには絶対いかないので、その時間をどこかで捻出してもらっている状況です。

川合市長 定期的にできるとか、そういう状況ではないのですね。

意見 そうですね。逆に言うと、その冊子をつくるにしても、いろんな事情を皆さん抱えていて、全員がそろそろ場が少し減ってきているのかなと。私は川越にいて他市に行って、また戻ってきた人間なので、そういう意味では10年前に川越でお世話になったときよりも忙しくなっているなというのは私の年代でも感じるので、多分長く川越にいる方が中でも感じる部分なのかなと思います。

《子ども達が認められる仕組み》

意見 子どもたちが荒れるということが先ほどいろいろお話が上がっていますが、確かに中学校の子どもたちも大変ですし、もちろんその子たちは小学校のときから大変

だということもあるので、子どもたち自身の問題もあるし、家庭の保護者の方の育て方等いろいろとあると思いますが、もう一つ挙げれば、やっぱり我々教師としての指導力が不足しているのも一つの原因だと思うんですね。そういう荒れる子を見ていると、やっぱり学校の授業についていけない子がほとんどで、授業にいてもつまらないという子が多いです。ということはやっぱり小学校からの積み重ねができてなくて中学校に上げるという、すごくそれが問題なんじゃないかなと思います。

例えば現場の様子を言えば、我々は教えるのが仕事であって、その技能を高めていくための校内研修とかありますけれども、自分の授業をほかの先生に見ていただいて批評してもらうのを極端に嫌がるとか、結局そういう本来やるべきところを、10年も20年もやっていて余りそういう機会がなかったりする先生もいらっしゃいます。子どもをほめなかったりすることが積み重なって行って、結局授業についていけなくて、学力がつかないというのが一番大きな問題だと思います。我々はそこで一番何とかしなきゃいけないのに、そこをやらずに家庭だとか本人の責任だというのは、それはちょっと本末転倒かなと思います。

例えば少年院とかに入ってきた子たちに聞くと、中学校までに一度も先生にほめられなかったという子がいたり、そういうのは本当に我々の責任であって、結局、その子ができるようにしてあげなかった学校としての教師の責任もあるのかなと思います。

例えば市によっては、子どもたちをほめようという条例をつくったりだとか、それから10歳のときに2分の1成人式をやって、そこで子どもたちを一度認めてあげるということをやっている行政の方もいらっしゃったりして、勉強を苦手とする、スポーツを苦手とする、学校で余り認められない子が、一度は必ず賞状をもらうとか、認められるという場を学校で必ず川越市が全員の児童に保証する、そういう仕組みというシステムがすごい大事なのかなというふうに思います。

ですから、先ほど申し上げたように、市長さんの名前で例えば10歳になったら2分の1成人式おめでとうということ、二十歳になればやりますけれども、半分のところで、小学校4年生の時点でやったりとか、そういう具体的な取り組みがすごく学校現場としては必要なのかなというふうに思います。

川合市長 ありがとうございます。いろいろないい意見を聞かせていただきまして、大変参考になりました。

だれもが言うことですが、教育というのは極めて重要な問題で、私も極めて重要な問題であると認識しています。世の中を変えるのはやっぱり教育でしかないという、それはもう昔からずっと言われてきたことだし、真理だと思います。ただ、その教育

をどういうふうに持っていけばいいのか、今の問題点をどうやって解決したらいいのか、なかなか難しい問題であります。

今、私としては、気持ちはあるのですが、具体的にどうやったらいいのか、正直言ってよくわからない、そういう段階でして、皆さんのいろいろな意見を聞きながら、あるいは教育委員会、教育長等の意見も聞きながら、少しずつこういうふうにするんだというようなものを打ち出していきたいと考えております。皆さん方からいただいた意見は、すぐに対応できるものはなるべく早く対応したいと思っておりますので、また今後、いろんな意見を出す場といいますか、そういうシステムがほしいというご意見もありますので、そういう点についても工夫をしていきたいというふうに考えています。きょうはどうもありがとうございました。